

年頭所感

今年も宜しくお願い致します

2019年の初頭にあたり、ひとことご挨拶をさせていただきます。昨年は色々なご関係者の方々に、ATACの活動に対し、ご教示、ご指導を色々賜り、本当に有難う御座いました。

2018年の年末に行われる京都清水寺での恒例の漢字が「災」であったことはよくご存じのところですが、確かに昨年は災害が目立った一年でした。

西日本の大水害、大阪北部地震、北海道の胆振大地震、そして今まで経験したことのない強烈な風を伴って次々と襲ってきた巨大台風。

関西は台風21号で多くの被害が出て、我々の関係する中小企業の皆様のところでも被害が出ました。謹んでお見舞いを申し上げます。

しかし、明るい話題としては大阪万博が2025年に決定したことでしょう。

これは万博のみならず、集合リゾート（IR）の誘致も進むでしょうから、各中小企業においても色々な関係で積極的に取り組む嬉しい機会を与えられたものと受け止めるべきでしょう。ATACとしてもご協力してゆきたいと願っているところでもあります。

本年に限って言えば、何といたっても大きいのは平成から新元号に替わり、新天皇ご即位と参院選挙、G20、秋にはまだ不確定ではありますが消費税増税が控えております。これ等を踏ま



(一財)大阪科学技術センター
ATAC運営委員長
梶原 孝生

えた予測と対応をしっかりと考えたいと思います。

また、現在の世界情勢を睥睨すると、何と云ってもトランプの米国と中国との貿易摩擦でしょう。その影響は我々のところにもひしひしと迫ってきております。中小企業の皆様のところでもこの影響を避けることは出来ないでしょう。従ってその対応方法を真剣に

考えざるを得ません。これが本年の一番の課題でしょう。

昨年のATACの活動は各種のコンサル活動とともに、中小企業庁のものづくり補助金（略してモノ補）の申請サポートにも精力的に取り組み、反省する点もありましたが、全体としては大きな成果をあげました。

今年もこれは継続されるでしょうから、ATACとしても昨年に引き続き、いや、昨年以上に精力的に取り組む覚悟です。どうかこの「ものづくり補助金」を考えておられる企業様はATACのサポートにご期待下さい。積極的に早めにお声をかけていただくようお願い申し上げます。

ATACも益々真剣にご支援の努力を重ねてゆく覚悟です。

引き続き本年もご指導ご鞭撻を望んでおります。宜しくご指導、ご鞭撻をお願い致します。

第12回OB活用組織全国会議

OB活用組織全国会議は、企業OBで構成する中小企業支援機関の相互連携を目的とし、2007年に大阪科学技術センタ ATAC の呼びかけで発足、第12回目の開催となる。今回は2018年10月30日に（一財）大阪科学技術センタで、全9機関と日刊工業新聞の赤穂編集局長様の参加を得て開催。『発展』をテーマに積極的な討議をおこなった。

【第1部】各機関の活動状況

【(1)は組織の概要 (2)活動状況】

◆(一社)大阪府産業支援型NPO協議会 (OSK) GBプロ(海外専門部会)担当副部長 米谷政勝氏

- (1) 海外業務経験シニア人材を中心に中小企業の海外展開支援を行っている。
- (2) 海外EC(電子商取引)、展示会ブース支援、海外代理店 finding・契約、インバウンドビジネス強化支援、海外展開関連補助金サポートなど。

◆近畿産業クラスター協同組合

理事長 栗野順二郎氏

- (1) 経験豊富な先端企業のOB 28名からなる技術者エキスパート集団
- (2) 中小企業のものづくり支援活動、販路マッチングナビゲート活動を通じ地域社会貢献している。スローガンは“中小企業・ベンチャー企業を元気にする！”

◆(一社)日本機械学会

関西シニア会 会長 城野政弘氏

- (1) 企業・大学・高専等で、機械工学、経営などの領域で豊富な経験・専門能力を蓄積した約200名の日本機械学会所属の原則60歳以上のシニア人材集団。
- (2) 1、会員相互の親睦と情報交流の促進。
2、シニアの経験・技術・知恵を活用し、教育機関、学生、企業、技術者への支援。
3、関西支部の活動に協力しその発展に寄与する。その他「親と子の理科教室」30~40教室/年を開催、好評である。

◆NPO法人 ノウハウ会

理事長 藤崎郁夫氏

- (1) (一社)OSKに所属している。同団体は14団体が加盟し、各団体の会員様を合わせると500名の専門家集団となっている。

- (2) 大阪府が主催する「環境交流パートナーシップ事業」を受託して運営。主な内容 ①年間3回のセミナー、②登録団体の募集、③市町村から収集した情報をSNSに掲載。また当会の主力事業である「エコステージ」をさらに拡大したいと考えている。

◆NPO法人 ものづくり人材アタッセ

理事長 月山愛二郎氏

- (1) プラスチック関連企業での現場経験・熟練技能及び経営管理などの専門能力を持ったシニアを組織化。支援対象企業をプラスチックのみならず、ものづくり全般へ拡大する方針から、昨年度、「NPO法人ものづくり人材アタッセ」へと名称変更。
- (2) 「わかる！使える！射出成型入門」を8月に日刊工業新聞様より発刊。8名の専門家による共著。

◆NPO法人 ATAC・MATE 奈良

代表理事 天粕壽也氏

- (1) 現在12名で活動中
- (2) 中小企業の技術支援、経営支援が中心。重点展開は、公的支援サポート事業(ものづくり補助金、経営力向上計画、経営革新計画、先端設備等導入計画、農商工連携ファンド)・奈良職業能力開発促進センタ等で生産性向上支援訓練講師を行っている。

◆認定NPO法人 産業人OBネット

理事長 服部晃氏

- (1) 設立後12年を経過。企業の定年退職者のアドバイザー(以下、AD)で構成。AD数103名(30年8月末)全個人会員数約130名、団体会員数53社。
- (2) 中小企業の経営課題解決支援や学生や若者の就業企業支援(職業体験講話等)を行う。活動方針は、成果測定の尺度を[利益]でなく[社会貢献度]におき、ADに対して公平・公開の原則で行っている。今後、企業との支援活動の拡大、支援分野や出前教育の拡大、関係団体機関との連携強化を図る。

◆(公社)大阪技術振興協会

理事 細谷陽三氏

- (1) 技術士資格を持つ主に企業OB会員による公益社団法人
- (2) 公共工事の完成検査や業務監査、技術士受

験指導等を業務とし、土木建築系の監査依頼が多かった。最近では市町村の技術職員への教育の派遣要請が増えている。昨年ぐらいから、中小企業の環境関係支援金取得のための業務を行ってきて、省エネ計算を要求する業務が多くなってきた。

◆(一財) 大阪科学技術センタ ATAC

運営副委員長 明石祐二郎氏

- (1) 会員数：21人（新人5名入会）
- (2) 月2回全員参加の研究会を開催し、支援案件の進捗状況管理、新規案件・課題の討議、懇親会などを行う。企画会議を月1回開催し重点課題の検討を行っている。年間行事としては社長懇話会、ATAC ニュース刊行、各種講演会、OB 組織活用全国会議、宿泊見学会などを行っている。

[第2部] 中小企業支援事業の発展の為に

1、人材の充実

クライアントの多様な要求に応えられる様

に幅広く対応できる人材を確保する。その為に副業解禁の動きも活発化しているので現役社員の入会も歓迎する。

2、中小企業支援事業を発展させる方策

(1) 中小企業支援の公的資金の導入

補助金の導入などを中小企業へ提案し、その実務を担当し信頼の醸成を図る。自分たちだけで解決できない場合は他機関と連携し総合力で対処する。

(2) 行政、金融機関のサービスとの連携

中小企業からの依頼への対応に特長を出すことにより行政や金融機関との連携による相乗効果も発揮する。

3、地域の問題を解決する

今後、期待されるテーマとして地域の活性化等に対する支援が考えられる。地域の活性化に貢献することにより社会からの期待が、さらに高まってくると思われる。

(田中敏明、平洋二郎)



ATAC ひと言

「きたしんビジネスマッチングフェア-2018WITH大阪大学」に出展!

20回を数える「きたしんビジネスマッチングフェア」は、2018年11月13、14日の両日、マイドームおおさかで開催されました。主に北大阪エリアの中小企業が、産・学・官・金融等のあらゆる分野とのビジネスマッチングを図っています。今年も盛会で、展示数130社、来場者数は2,800名超でした。

「現場現物主義を貫き中小企業の経営改善の支援を行う」ことをATACのモットーとして、今回も出展しました。約20名の方からご相談を受け、早速訪問し今後の進め方を相談させて

頂いております。今後ともよろしく願い申し上げます。(長田徹記)





間伐材出材システム [スネークライン]

NPO法人 ATAC・MATE奈良 代表理事 天粕 壽也

国内林業は、木材価格の長期低迷や林道整備の遅れから、生産コストに見合う収益が見込めず、生産活動が著しく減退している。

上田技研産業株式会社(*1)は林業を事業として確立させる施策の一翼を担うことを目的に、従来の木材搬送技術に捉われない全く新しいアイデアの間伐材出材システム「スネークライン」(*2)を検討してきた。NPO法人ATAC・MATE奈良は、上田技研産業株式会社の要請を受けH26年から「間伐材出材システムの開発」の技術支援を行い、現在も進行中である。

スネークラインは山林の木材伐倒地点で集材し、林道で待機する木材運搬車までモノレール方式で木材を搬送する機械化されたシステムで走行距離は約1km可能である。



スネークラインは5つの部分から成っている。

①	集材システム	伐倒した木材を集めて、木馬に乗せる
②	キンマ木馬	モノレール方式の木材運搬車
③	タワーホイスト	木馬上の木材を運搬車両に乗せ換える
④	敷設レール	木馬を運ぶモノレールで山林の奥深くまで敷設する
⑤	ルーバー	レールを敷設する自走台車

スネークラインの主な特長

集材システム：素早く伐倒木材を掴み上げ木馬まで架線を用いて搬送する「スーパーモンガ」と称する架線集材を開発中である。



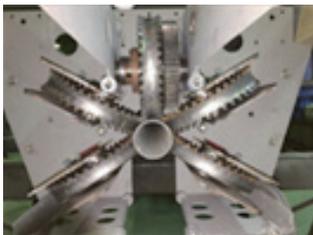
① 集材システム



木馬：駆動部は、5つの特殊ギアホイールで鋼管を抱きかかえている。



② 木馬



タワーホイスト・レール：薄肉鋼管を使用し、長さ4mの1組のレールを現地では2人で組立できる。



③タワーホイスト



④ 敷設レール

ルーバー：施工中のレールの先端に、4mのレールを乗せて移動する敷設・撤去用工事台車。



⑤ ルーバ

H29.5.12 奈良県吉野町山林でこのスネークラインの見学会を実施しました。40名の参加者が有り、このテーマに対する関心の深さと実用化への期待を知ることが出来ました。

以上簡単にスネークラインを紹介しましたが、我々は今後2年間かけて完成させ実用に供する計画です。

注 *1 [上田技研産業株式会社]：奈良県奈良市帝塚山1-1 梵鐘用撞木・自動撞木、ベルと花時計、大型時計、イベント用カップローソク等製造販売
*2 [スネークライン]：蛇が獲物を狙って山林の奥深く侵入するイメージ